

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：20105

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26460838

研究課題名(和文) 中年期女性の尿失禁リスク要因解明と尿失禁への対処行動促進に関する研究

研究課題名(英文) Clarifying Risk Factors and Promoting Coping Behavior for Urinary Incontinence
In Middle-aged Women

研究代表者

原井 美佳 (HARAI, MIKA)

札幌市立大学・看護学部・講師

研究者番号：80468107

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、寒冷地に居住する中年期女性の尿失禁の有病率と尿失禁のタイプ、尿失禁に関連する要因について検討した。

平成26年度調査は、800人のうち173人から回答があり(回答率21.6%)、自己申告による尿失禁の有訴率は34.1%、平成27年度調査は37.2%(回答率19.5%)、平成28年度調査は43.7%(回答率34.9%)であった。このように有訴率は3年間で9.6%上昇した。尿失禁の頻度は、「およそ1週間に1回、あるいはそれ以下」と比較的軽度であり、「せきやくしゃみをしたとき」の腹圧性尿失禁が有意に多かった。歩行時間は尿失禁に伴う生活の質に有意に影響にしていた。

研究成果の概要(英文)：We examined the prevalence, types, and factors related to urinary incontinence in middle-aged women living in cold regions. In a 2014 survey of 800 people, 34.1% of 173 respondents (21.6% response rate) complained of self-reported urinary incontinence compared to 37.2% (19.5% response rate) in a 2015 survey and 43.7% (34.9% response rate) in a 2016 survey. These findings show a 9.6% increase in the percentage of women complaining of urinary incontinence over 3 years. The frequency of urinary incontinence was relatively mild, at “approximately once per week or less frequent,” while abdominal pressure-induced urinary incontinence from “coughing or sneezing” was significantly common. The amount of time spent walking significantly impacted the urinary incontinence-related quality of life.

研究分野：公衆衛生学、老年看護学

キーワード：尿失禁 中年期の女性

1. 研究開始当初の背景

わが国の平均寿命は、男性 80.21 歳、女性 86.61 歳、高齢化率は 26.0% となり、2055 年には 39.4% に達すると予測されている¹⁾。このような超高齢社会において、長い老年期の健康を保つことは、老年期にある人だけでなく、これから老年期を迎える世代においても重要な課題である。老年期の健康は、老年期以前の生活習慣や既往歴の総体によると考えるとき、若い世代から老年期を見据えた健康維持への取り組みが必要となる。

これまで、加齢と下部尿路症状の関連²⁾が報告されている。また、高齢女性の尿失禁有病率は 34.5%³⁾、あるいは 23.3%⁴⁾とも報告されている。そのリスク要因としては経膈分娩の経験⁵⁾、年齢と BMI⁶⁾、母親や姉の尿失禁の既往⁷⁾、骨粗鬆症による身長低下⁸⁾などが報告されてきた。研究者らが実施した、65 歳以上 74 歳以下の女性を対象とした調査⁹⁾においては、尿失禁有訴率は 29.5%、リスク要因は、過去の最大体重、喫煙指数、健康状態、膀胱疾患の既往、痔疾患の既往、母の尿失禁の既往であった。

このように老年期の高齢者である女性を対象とする横断調査の報告は散見されるものの、寒冷地に居住する 50 歳以上 65 歳未満の女性に限った縦断研究は見いだせない。寒冷地という地域特性は、対象者らの身体の循環動態や暮らしぶりに影響するという点において尿失禁への影響が予測される。

引用文献

- 1) 内閣府政策統括官編. 高齢化の状況及び高齢社会対策の実施状況. 第 1 章 高齢化の状況. 高齢社会白書平成 27 年版. http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2015/zenbun/pdf/1s1s_1.pdf (2015 年 10 月 31 日参照)
- 2) 道川武紘, 西脇祐司, 菊池有利子, 中野真規子, 高見澤愛, 小池美恵子, 菊池徳子, 向山由美, 中澤あけみ, 西垣良夫, 武林亨. 中高年における尿失禁に関する調査. 日本公衆衛生雑誌 2008; 55(7):449-455
- 3) 本間之夫, 山口脩, 林邦彦. 疫学調査からみた排尿症状と加齢の関係. 泌尿器外科 2004;17:577-578
- 4) 吉田裕子, 金憲経, 岩佐一, 権珍嬉, 杉浦美穂, 古名丈人. 都市部在住高齢者における尿失禁の頻度および尿失禁に関連する特性: 要介護予防のための包括的健診「お達者健診」についての研究. 日本老年医学会雑誌 2007;44:83-89
- 5) 道川武紘, 西脇祐司, 菊池有利子, 中野真規子, 高見澤愛, 小池美恵子, 菊池徳子, 向山由美, 中澤あけみ, 西垣良夫, 武林亨. 中高年者における尿失禁に関する調査. 日本公衆衛生雑誌 2008;55(7):449-455.

6) Azuma R, Murakami K, Iwamoto M, Tanaka M, Saita N, Abe Y. Prevalence and risk factors of urinary incontinence and its influence on the quality of life of Japanese women. Nurs Sci 2008;10:151-158.

7) Hannestad YS, Lie RT, Rortveit G, Hunskaar S. Familial risk of urinary incontinence in women: population based cross sectional study. BMJ 2004;329:889-891.

8) Berecki-Gisolf J, Spallek M, Hockey R, Dobson A. Height loss in elderly women is preceded by osteoporosis and is associated with digestive problems and urinary incontinence. Osteoporos Int 2010;21:479-485.

9) 原井美佳, 大浦麻絵, 吉川羊子, 森 満. 女性高齢者の尿失禁と関連する体重などの要因の断面研究. 日本公衆衛生雑誌 2013;60(2):79-86.

2. 研究の目的

本研究は 3 ケ年の縦断研究から、A 市に居住する 50 歳以上 65 歳未満の女性の尿失禁の有訴率とリスク要因を解明することを目的とした。

3. 研究の方法

本調査は、平成 26 年度に札幌市に居住する 50 歳以上 65 歳未満の女性から無作為抽出した 800 人に対し、郵送法ならびに自記式質問紙法を用いた横断的調査を実施し、平成 27 年度および 28 年度に縦断的調査を実施した。質問紙は、基本属性、生活習慣、排尿についての 25 項目から構成し、回答には 15 分程度の時間を要するものを用いた。

本研究における「尿失禁あり」の定義は、ICIQ-SF (International Consultation on Incontinence -Questionnaire) の尿失禁頻度について「なし」以外の回答を寄せたものとし、それらを尿失禁有訴者とした。ICIQ-SF は得点化された 3 項目(尿失禁の頻度、量、QOL への影響)と得点化されない原因の自覚についての 1 項目から成る尺度である¹⁰⁾⁻¹¹⁾。ICIQ-SF の日本語版は、尿失禁の症状と QOL 評価を兼ねた質問票として妥当性が確認されている¹²⁾。得点範囲は 0-21 点であり、点数が高いほど尿失禁によって QOL が障害されていることを示す。本尺度の使用にあたっては後藤ら³⁾より許諾を得た。

引用文献

- 10) Avery K, Donovan J, Peters TJ, Shaw C, et al. ICIQ: A brief and robust measure for evaluating the symptoms and impact of urinary incontinence. Neurourol Urodynam 2004;23:322-340.

11)Donovan J, Bosch R, Gotoh M, Jackson S, et al. Incontinence,Chapter10, Symptom and Quality of Life Assessment. London : Health Publication Ltd, 2005; 519-584.

12)後藤百万,Jenny D, Jacques C, Xauier B, et al.尿失禁の症状・QOL 質問票：スコア化 ICIQ-SF(International consultation on incontinence-questionnaire : short form). 日本神経因性膀胱学会誌 2001;12:227-231.

4. 研究成果

平成 26 年度調査は、無作為抽出した A 市の 50 歳以上 65 歳未満の女性 800 人のうち 173 人から回答を得た(回答率 21.7%)。そのうち尿失禁ありと回答した人は 59 人であり、自己申告による有訴率は 34.1%であった。尿失禁がある人とない人の背景について比較したところ、身長 ($p=0.033$)、および体重 ($p=0.023$) に有意差がみられた。尿失禁がある人の 1 日の歩行時間について、30 分未満の人と 30 分以上の人を比較したとき、30 分未満の人の尿失禁の有訴率は 56.4%であるのに対して、30 分以上の人は 43.6%であった。次いで、尿失禁のリスク要因を検討したところ、1 日の歩行時間と現在の体重に有意差がみられた。歩行時間を 2 区分したとき、高値 (30 分以上) のオッズ比(95%CI)は 0.44(0.22,0.88)であった。現在の体重を 3 区分したとき、高値 (56.6kg 以上) のオッズ比(95%CI)は 2.37 (1.04,5.43)であった。

平成 28 年 7 月に無作為抽出した A 市の 50 歳以上 65 歳未満の女性 800 人を対象として自記式質問紙を用いた郵送法調査を実施した。279 人から回答を得て(有効回答率 34.9%)、自己申告による尿失禁有訴率は 43.7%であった。尿失禁の頻度は、「おおよそ 1 週間に 1 回、あるいはそれ以下」と比較的軽度であった。尿失禁の場面では、「せきやくしゃみをしたとき」の腹圧性尿失禁が多かった。

研究者の研究 9)において、65 歳以上 74 歳未満の女性の尿失禁のリスク要因は過去の最大体重、喫煙指数、健康状態、膀胱疾患の既往、痔疾患の既往、母の尿失禁の既往であった。しかしながら、本研究の対象である 50 歳以上 65 歳未満の女性においては、これらのリスク要因は該当しなかった。このように、前期高齢者の女性の尿失禁のリスク要因は、50 歳以上 65 歳未満の女性においてはリスク要因ではなく、さらに他のいかなる要因もリスク要因となっていなかった。したがって、尿失禁のリスク要因は、女性の年代によって異なることが示唆された。

尿失禁は若い世代にも一般的に認められる。老年期の健康は、老年期以前の生活習慣や既往歴の総体によると考えるとき、こ

のような若い世代から老年期を見据えた健康維持への取り組みが必要となる。今後これらの 50 歳以上 65 歳未満の女性が加齢に伴い、どのような要因をリスクとして負う可能性があるのか慎重に検討する必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

原井美佳, 森 満, 札幌医学雑誌, 中年期女性の尿失禁のリスク要因の検討, 札幌医学雑誌 85,29-32, 2017. 査読有

〔学会発表〕(計 2 件)

Mika Harai, Mitsuru Mori, Investigation of urinary incontinence in middle-aged women living in the cold districts of Japan, ICS2016 (Tokyo) (International Continence Society), 2016.9.13-16.

原井美佳, 森 満, 尿失禁のリスク要因の検討—前期高齢者の女性と中年期女性の比較—, 第 22 回日本排尿機能学会(札幌京王プラザホテル, 札幌), 2015.9.9-11.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

原井美佳 (HARAI,MIKA)
札幌市立大学・看護学部・講師
研究者番号：80468107

(2)研究分担者

森 満 (MORI MITSURU)

札幌医科大学・公衆衛生学講座・教授

研究者番号：50175634

(3)連携研究者

該当なし ()

研究者番号：

(4)研究協力者

該当なし ()